

山崎剣友会創立40周年

記念会報

四十周年記念行事プログラム

- 一 開会のことば
- 二 会長挨拶
- 三 来賓挨拶
- 四 来賓紹介
- 五 小学生による基本練習
- 六 小中学生による「木刀による剣道基本稽古法」
- 七 空手道の演武
- 八 居合道演武
 - 瀬ノ口敏樹 六段
 - 武田弘 五段
- 九 紅白試合 参加者全員
- 十 合同稽古 参加者全員
- 十一 閉会式
- 十二 稽古会講評
- 十三 閉会のことば

2015年（平成27年） 11月29日（日）
於：山崎中学校





創立 40 周年に寄せて

創立者 西山健太郎

山崎剣創立 40 周年記念大会おめでとうございます。

ひとくちに四十年と言いますが、歳月の重みを考えますと、ずしりと旨に響くものがあります。これは単純な時間の長さだけでなく、多く人々から寄せられた心の重さがこめられているからです。歴代会長の努力をはじめ、それを支えた指導の先生方の熱意、父母役員のご協力、さらには会員の皆さんとの剣道愛と向上心というものが具体的な結実の姿として表れているからです。

山崎剣発足の当初は「山崎少年剣友会」と名乗っておりましたが、小学生会員中心の運営だったからでした。その後、協力して下さる指導の先生方が増え、会員も中学生、高校生と成長し、充実してきましたので、「山崎剣友会」と発展的に会名を変えました。そして、二十周年の頃には、近隣の剣友会をお招きして祝賀大会を催すほどになりました。また、盛況を反映して、毎年のように相原の農協学園などで夏季合宿を行い、季節に応じた「おしるこ会」などもして親睦を図り、英気を養いました。

このように四十年間には充実した楽しい思い出が多々ありましたが、最近は少子化という社会現象の影響によって、少年会員の加入が少なくなってきたのは残念なことです。しかし、毎回の稽古日には幼いながらも大人相手にみっちり稽古に励む健気な姿がみられ、頼もしい限りです。

どうぞ先輩の築いた伝統を引き継ぎ、礼に始まり礼に終わる剣道精神を身につけ、実践して、次なる五十周年行事を迎える力強い足取り始めて下さい。諸君の健闘を祈ります。

西山先生の米寿お祝いに会員全員のメッセージ入り色紙をプレゼントしました。



「山崎剣友会創立 20 周年記念剣道大会 参加団体」

剣正会・つくし野剣道育成会・原町田剣友会・緑ヶ丘剣道クラブ・玉川少年剣道育成会

《平成 8 年 6 月 9 日 (日) 忠生第七小学校体育館》

☆☆☆☆山崎少年剣友会から山崎剣友会の40年の歩み☆☆☆☆

第五代会長 菅野和治

☆山崎少年剣友会の始まり

山崎少年剣友会の始まりは、東京都郊外の町田市山崎町マンモス団地の第七小学校体育館（現七国山小学校）の日曜日の朝から・・・・小学生の元気のある大きな気合い竹刀の素振りから第一歩をあゆみ出しました。それには、1976年第七小学校に教頭先生として赴任された西山健太郎先生により少年剣友会として発足しました。その時代は山崎団地周辺には小学校が3校、中学校2校と多くの小中学生が校庭をところ狭しと、走り回っていました。

そのような、地域の環境の中で、少年剣友会も小中で40人程度の練習生でにぎやかに元気よく稽古に励んでいました。会の行事も年2回の内部の学年別大会、高点試合、夏休みは一泊で合宿、日本武道館の練成大会への参加など、忙しく子供達と行動を共にしていました。夏合宿ではバス一台を貸切り山梨県で八王子の昭武館道場と合同合宿、湯河原の道場付温泉旅館で、小田原では酒匂川支流でマスのつかみ取り、海老名のお寺さんの道場合宿等々・・・・当時は行動範囲が広かったことを思い浮かべ、私も30代の一番厳しく指導していた時期でもありました。日本武道館の帰りには、当時の指導者古門裕康先生の引率で警視庁交通管制センターを見学したときは、子供たちが施設の迫力に目を輝かせ興奮していた様子が思い浮かばれます。

その当時から、西山先生の方針で稽古だけを教えるのではなくこの会を通じて子供達にいろいろな体験をして育ってほしいと言う願いで【稽古7、体験学習3】が現在にも引き継がれています。田植え体験もその流れです・・・・このように、子供たち中心の活動時代でした。

1985年ごろになり、今まで静かに見守って頂いていた父母の方が実は中学時代、高校時代に剣道をしていました。子供と一緒に自分も初めてみたいと、大人の入会希望者もあり、成人の会員も少しずつ増え、盛会の少年剣友会でした。その時期は稽古終了後、先生方と父母の方々でお茶を飲みながら稽古の反省会をする時間を毎回設けていました。その中で一般の会員も増え、多少子供たちの会員も減りつつあり、会の運営にも父母会でだけでなく指導者も参加した会に変えていく方向で検討を行いました。その結果として、（市の剣道連盟の対応他）少年剣友会から少年の文字を削除し現在の山崎剣友会に改名したのが1985年頃だと記憶しております。

2003年に忠生五小、第六小、七小が統合され練習場が現在の山崎中学校に移り現在に至っています。2000年の初めからは、町田の大地沢にある農協中央学園で夏合宿を行い、朝の体操・散歩、午前午後の二回の稽古、夜は食事後の勉強会と強行スケジュールで剣道漬けの一泊でした。勉強会では、防具、稽古衣の着装、たたみ方、竹刀の手入れ等各々の指導者が得意分野を担当し手を取りながら教えていました。子供達は眼の目をしながらも一生懸命着装等勉強していました。現在は数少ない会員で合宿を行うのは難しいですが、初心者が多い今勉強会を計画する必要があると思われます。このようにして、40年の経過を経て現在の剣友会に至っています。



2015年11月に剣友会40周年の行事を行いましたが、記録をたどると10周年、20周年、30周年と時代を築き今日40年を迎えて、すでに50周年に向け始動しておりますが、今日に至るには、その時代の指導者、父母の方々の多大なるご協力があればこそ子供たちが元気に剣道を続けられ、40年間事故もなく無事に会が存続できたことを改めて皆様に感謝し御礼を申し上げます。

☆これからは私の話

私の話を少し・・・・。私自身は中学生から剣道をはじめ高校、大学と剣道部で活動をして

50数年がたち、体育会一筋で剣道人生を今日にまで・・・・。その中でも大学時代の経験が今の自分があるのではないかと思っています。ご指導を頂いた高名な先生方、高校総体、国体等で数々の大会で優勝の経験を持つ同期、後輩達の一級品の剣道を目のあたりにし、自分はその人たちの持つ天性の才能には到底太刀打ちできないと感じ、今後いかに剣道を続けるか思案し、毎日、日々稽古を自分の身の丈にあった中で心技体の向上を目標とし、大変厳しい辛い稽古に励んだ 学生時代でした、また専攻が工学部でしたのでそれなりに勉強もして留年なしで卒業できました。

【文武両道】

今はよき仲間たちに囲まれ生涯剣道をめざし子供たちのお世話になっています。【感謝】

☆50周年に向けて！！！

今の剣友会の子供達の目標は、小学生は中学生になり、中学生は高校生になり 剣道部に入れるよう正しい基本を覚えてください。ただ現在は、剣道に限らずいろいろなことを選べて経験できますが、山剣で経験した、寒い冬、稽古衣一枚で裸足の冷たさ、夏の暑い中、面を付けての 汗まみれの苦しい稽古は強い自分を作っています自信を持ってください！！！

選手権保持者のお話ですが・・・・、小学生のとき試合に勝って家に帰り母親に報告したときの母の顔は、今までに 見たことのない笑顔でした、その笑顔がまたまた、今まで以上に人より多く稽古に励んだことが今の自分があると話していただいたことがあります。 子供たちには、何よりも母親の笑顔が一番の励みになるというお話しです。今後も元気に成長していく子供達と共に 50周年に向け頑張っていきましょう！！！

【頑張れ山剣剣士たち剣豪と呼ばれるその日まで】



《山剣のこどもたちからのメッセージ》

小二 おのか えりこ

けんどうにはいって、ともだちのがんばるすがたがとてもうれしくて、じぶんがじょうずになるのもうれしくて、たのしいです。これからも、けんどうをがんばります。



小三 小野家 百合子

わたしは、けんどうを習ってから、ともだちふえたような気がします。わたしは、けんどうのおかげだと思います。これからもけんどうがんばります。

小三 佐々木 栄真

いつも楽しく頑張っていますが、ときどき声が小さいとか、うでを上げろとかいろいろ注意されてしまいます。けれど、剣道の友だちもできたので、楽しくて面白いです。今度からは、注意されないようにがんばります。



小四 小森 沙耶

山剣に入ってから楽しいことがたくさんありました。すいかわりは、われなかったけど、楽しかったし、みんなでお弁当を食べたりして、楽しかったです。上達した時にほめられるのがうれしくなります。思い出がたくさんできました。



「山剣できついこと」

小五 石崎 慎悟



特に、日曜日、扇風機をかけないでずっとやっているのはとても大変だった。休みもあるけれど、あまり休みない。この前の大会は、体が動かなかったので、今度の大会は頑張りたいと思います。

小六 若林 洸佑

剣道をやり始めて楽しいことは、練習もそうですが、いろいろなイベントがあることです。イベントがあるから、結構楽しいときもあります。

小五 三輪 優誠

毎日の剣道のおかげで、少し強くなれて学校でもあまりいじめられなくなりました。長時間の剣道の稽古で打ちのしかたをしっかり覚えられました。長時間やることでより強くなれたと思います。

小六 永井 誠十

僕が、山崎剣友会に入って思ったことは、剣道は意外にきつくなくて、楽しく覚えられそうだし、みんな優しそうだなあと思いました。その後に、防具をつけて初めての試合で負けたりしましたが、何とかやっていけました。これも先生方のおかげです。

「一 勝」

小六 赤木 瑞

自分が山崎剣友会に入つて良かったことは中学生になって1級に受かつた事です。剣道が楽しく学校でも剣道部で稽古しています。

一番心に残つた行事はボーリング大会です。1回もストライクが出なくて難かしさが垣間見えましたが楽しかつたです。

剣道の大会では胴を打たれて負けたのが今ではいい教訓になりました。正直悔しくて「試合で1勝する」というのが今後の自分の課題です。これからもご指導よろしくお願ひいたします。

小六 栗原 悠人

山剣に入つてよかったです。かぜをひかなくなつたことです。今までかぜをひいていたのに、剣道をしたら、かぜをひかなくなりました。なので、学校にも、あまりかぜをひかないで行けるようになりました。

中一 安藤 優太

山剣に入つて、まず先生方に稽古をしてもらえたから今の自分があると思います。稽古をすると何か一つ自分のできる事が増えた気がして、他の事で自分に自信が持てるようになりました。稽古は、たまにきついと思うことがあるけれど、楽しいので続けたいです。



中三 橋場孝太

山崎剣友会40周年おめでとうございます。記念の節目にいられて嬉しく思います。

私が山崎剣友会に入った理由は友達が武道をしていて自分も興味があり丁度山崎剣友会からの勧誘があり体験をして、楽しくて自分もやってみようと思ったので山崎剣友会に入りました。

今は部活や勉学などで忙しいですが、これからも山崎剣友会と剣道の発展のためにより盛り上げていきたいと思います。



中一 石崎 達也

僕は剣道を始めて、三年ちょっとたちました。僕は初めて試合に出た時のことです。初めての試合はとても緊張していましたが、延長戦末、勝つことができました。自分の方の旗が上がったときは、とてもうれしかつたです。





2015年精勤賞表彰

(年間稽古日数 79日)

第1位	栗原悠人	73日出席(92%)
第2位	三輪優誠	72日出席(91%)
第3位	石崎慎悟	69日出席(87%)

山崎剣友会との出会いから現在まで
副会長 清水敬造

三十歳を過ぎ、サラリーマンから教員に転職。町田市立忠生中学校に赴任し、竹刀を握ったことのない私が剣道部顧問を任せられることになりました。その頃、私は山崎剣友会と出会います。町田市剣道連盟大会に引率するうち、大会会場で、当時山崎剣友会（以下、山剣）会長であった西山健太郎先生と顔見知りになりました。西山先生は気軽に声をかけてくださいり、剣道部の生徒を山剣の稽古に誘ってくれました。

そして、忠生中剣道部は初めて1987年1月の山剣稽古始に参加しました。私は生徒約20名を引率して忠生七小（現七国山小）体育館に向かいました。稽古後、生徒も私も緊張が続いているなか、西山先生はじめ保護者の方々がお汁粉会に誘ってくれました。和やかな雰囲気のなか、生徒たちは打ち解け、喜んでいたことを鮮明に覚えてます。これが機会となって、剣道部は山剣稽古でお世話になったり、近くに住む部員が山剣の稽古にも参加するようになりました。数年後、山剣の会員が中学校入学後、剣道部に入部したりと、山剣とのつながりは深まりました。

忠生七小近隣に住む私も西山先生に入会を勧められ、現在に至ります。忠生中学校から世田谷区、多摩市、日野市の中学校へ異動してからは通勤時間や仕事の関係で、山剣の稽古に出られる回数が減少しました。しかし、夏休み中に実施された一泊二日の合宿や時折参加する普段の稽古に、厳しさのなかにも温かみのある山崎剣友会特有の雰囲気に心地よさを感じたものです。入会して約30年になりますが、この心地よさは歳をとっても、変わらないと思います。小学生会員だった前田陽平君が数年前に再入会し、剣道の稽古に参加してます。前田君との再会や前田君が稽古に励み四段に合格した喜びを共有できるのは格別の感激です。

山剣は一時、小中学生や大人の会員が徐々に減り始めました。しかし、栗原先生がホームページを開設したことによって、ここ数年、小中学生、大人の会員も増加し、往年の活気が戻ってきてると感じます。会員が増えるにつれ、中学生が小学生の、小学生高学年が低学年のこどもの面倒を見る光景が見られます。これほど、ほほえましいものはありません。小中学生がやる気を持って精進し、それぞれが希望をもって自らの道を切り開いていくことを願っています。

山崎剣友会への感謝
平成27年度父母副会長 安藤 百合子

山崎剣友会40周年の記念すべき年は、あつという間に過ぎてしまい、41年目の活動に入りまして、はや2か月が終わろうとしています。

息子優太が入会してから約7年。振り返りますと、これこそあつという間に過ぎ去ったように思います。最初のうちはソワソワして「座って話を聞く・ご挨拶」ですら、親としてはただただ、見ていて不安で不安で仕方がなく、精神的には正直、参るお稽古でした。そのような時、親は見守るべきが、ダメ出しばかり・・・。

この子は、やはりダメなんだろうかと思っております日々でした。しかし、お稽古中もさながら、稽古の後、西山先生に毎回、「よく出来てきているから、お母さんは、たくさん褒めてあげてください。」とお言葉いただきました。稽古後に息子自身が、直接、西山先生はじめ、先生方にたくさん褒めていただき、少しでも成長できたことと思います。本当にありがとうございます。

7年でも長いと思いますのに、40周年という節目は、並大抵のものではないと思います。地道にご指導いただきました先生方、会の運営を代々引き継いで来られた、

父母会の皆様方あっての今と存じます。その年度の運営に携われましたこと、厚く御礼申し上げます。

子どもたちにとって、礼儀作法や、目上の方との接し方、後輩への声掛け等、剣友会で得たものは計り知れないことと思います。

- ・こつこつと、努力を積み重ねる事の大切さ。
- ・周りでお世話になっている先生、家族への感謝の気持ち、常に忘れずに、これからも末永く続けてくれたらと思っております。

最後になりましたが、周年行事にて多岐に渡りご指導いただきました、菅野先生はじめ、清水先生、栗原先生、本当にありがとうございました。

山崎剣友会について

山剣事務局
栗原太郎

私が剣道を復活するきっかけとなったのは子供が剣道に興味を持ち、見学したいと言うことから始まりました。近くに剣道をやっている場所を探した所、山崎剣友会にたどり着き、もともと学生時代まで剣道をやっていた為、懐かしい気持ちで見学させてもらいました。

子供が入会することになり、見学していると一緒にやりませんか?と声を掛けられ、久しぶりにやってみるか~と思い、竹刀を握り始めた途端に昔を思い出してきて剣道魂に火がつきました。菅野会長の楽しく、長く剣道を続けるという考え方賛同し、正式に入会させて頂くことに決めました。私の小学校時代と違い、子供達が伸び伸びと楽しく稽古している姿を見て会長の人柄が表れているなと思います。

現在指導者としてやらせて頂いていますが、子供達には剣道を通して成長していってもらい、剣道をやっていて良かったと思ってもらえるように努力していきたいと思います。たとえ途中で剣道をやめてしまったとしても、大人になってまた剣道を再開したくなった時に戻ってきて欲しいなと思いますし、山崎剣友会は戻ってきた人を温かく迎え入れてくれるような場所でもあります。

剣道人口が少なくなりつつある中ではありますが、山崎剣友会では剣道を通して健全な身体と勤勉、自立と自律の精神を養い、少しでも楽しく、長く剣道を続けるという子供に育って欲しいと願っています。



山剣40周年

平成28年度副会長 濑ノ口敏樹

西山先生、山崎剣友会を設立され40年間に亘るご指導、心より御礼申し上げます。私も山剣に加入して11年になりますが、先生の丁寧で温かいご指導のおかげで続けることができております。剣道人生44年の中で一番充実した11年です。私も西山先生を見て、先生のように生涯のスポーツとして取り組む決意が持てました。これからも長く健康でご指導ください。



「居合道演舞」 濑ノ口俊樹六段



「空手道演舞」 濑ノ口隼大四段

山剣 40 周年

平成 28 年度度副会長

石崎智子

ちょうど山崎剣友会に見学に伺ったのが、4 年前の 1 月か 2 月頃でした。今から思えば、何故また一番寒くて見学には悪条件の時期に子供たちを連れて行ったのかと思います。体育館には、大きな掛け声や竹刀の打ち合う音、床を激しく踏み込む足音が響き渡っていて目の前に見る光景と音は、衝撃的に感じたと思います。稽古を見ている眼差しは、くぎづけでした。次に見学に行くのも嫌がらず、目をキラキラ輝かせていました。

～無理やりに連れて行っていないので、怖くて涙目でないはずです～

小 2、小 4 の春に入会して 4 年。子供たちの様子を見て、優しく接して下さったり、時には厳しい言葉をかけて頂けることは本当にありがたいことです。真剣に言ってもらえる、ありがたさを感じとつて欲しいです。

剣道で瞬発力や敏しょう性、持久力がついてきたように感じますが、まだまだ足腰の弱さが課題です。なんと言っても、剣道の稽古はきつくて苦しい、痛い、暑い、寒いといったことが避けられません。くじけそうになる時もあるかも知れませんが、地道な努力や我慢して耐え抜いて、身体的にも精神的にも耐えた自信が少しづつ成長につながっていってほしいと願うばかりです。

40 年の時が流れる山崎剣友会で、どれだけの子供たちが今まで稽古してきたのか、どのくらいの多くの先生方が関わってこられたことだろうかと想像してみると、継承してくる素晴らしいを感じました。そして、これからもまた先生方の教えのもと、仲間と一緒に切磋琢磨していってほしいです。

山剣 40 周年

指導者 高橋博三

40 周年という記念すべきこの年を心から嬉しく誇らしく思います。

思えば 68 歳になろうとしている私が山崎剣友会に入会したのは 30 歳を 1 つ 2 つ回った息子が小学 2 年の時ですから、もう 35 年以上のお付き合いということになります。その頃は子供たちも多く、会員数も 60 ~ 70 名位はおったでしょうか。忠生第 7 小学校（現七国山小学校）の体育館から聞こえてくる剣道の掛け声と竹刀を打ち合う音に誘われるよう、息子と共に体育館を訪れ、中で繰り広げられている稽古風景を覗き見て、息子と一緒に「やってみようか？」と問い合わせたのが入会のきっかけになりました。中学・高校と剣道部に籍を置いていた私ですが、大学では時たま稽古に顔を出す程度の幽霊部員のような存在だったので、最初に覗き見た稽古風景に、確かに、菅野先生らしき猛者の存在を認めて、息子が剣道を始めたいという気持ちとは裏腹に「あんな本格的に怖そうな猛者と相手したくないなあ…」というのが正直なところでした。

その菅野先生には以来、軟弱気味の私の尊敬すべき先輩として剣道だけでなく、様々な場面で叱咤激励を受けながら今日までやってきました。不思議なものでの最初の強烈な印象と親近感は 68 歳になる今も変わらないでいます。菅野先生の大きくて真っすぐな剣風に少しでも近づこうとの思いも今日まで山崎剣友会に私を留めてきた理由の一つであることは否めません。

剣道を通じて剣友会のたくさんの子供たちと出会い、その成長と熟達ぶりを喜び、また、教えられ、西山先生を始め、古門先生、佐藤先生、草地先生、溝渕先生に川原先生など多くの諸先生方のご努力の上に菅野先生、清水先生、瀬ノ口先生、栗原先生等の不断の指導に支えられて現在があり、また今の私自身があるものと思っております。

最後に、これまで裏方で会の運営と存続に献身的ご協力して下さった父母会の方々に心から感謝し、年齢とともに消え入りそうな剣道への熱意を鼓舞して少しでも会への御恩返しが出来ればと思っております。恥ずかしながら、諸先生に比してとても指導者とは言い難い私ではありますが、今後ともよろしくお付き合い下さいますようお願いします。



私の三十年

指導者 武田 弘

三十年前の七月、忠生第六小学校の工事を行った折り、近くの公園の掲示板に山崎少年剣友会の会員募集の広告が貼ってあり、「大人の人もどうぞ」と書いてありました。後日、書いてあった連絡先の溝渕先生宅に電話を入れ、入会させて頂きました。しばらくの間、何をするにも自分の居場所も解らず先生方には大変気をつかって頂きました。

当時、子供たちが多く、七小の体育館に二列半程ならんで整列しました。日曜日には先生方、数名がいらっしゃいましたが、水曜日の夜は西山先生一人の時が多く、時に先生方が誰も来なく高校生が号令を掛けて稽古を行ってましたが、剣道有段者が一人も来ない日も珍しくはありませんでした。それでも、小学生の年長者が号令を掛けて、先生が居る日と同様に士気の高い稽古を、最後の礼法まで手抜きせずに行っていました。

私が剣道二段の時、西山先生から指導者側に座るように指示を受けましたが、自分としては受ける側でなく飛び掛かりたくて仕方ありませんでした。家での素振りや会社の裏で、連日、竹刀で古タイヤを打ち続けているうちに、竹刀の物打ち所など解つきましたが、しばらくの間、腕がシビレで大変でした。

居合道や丈道も習いに行きましたが、なかなか、切先に心をうばわれ続け器のこと等、とても思いやる心境ではありませんでした。ご協力頂いている中学校、父母会、大会設営の方々、器を設営下さる方々のご苦労が目に入るまでには少々年数が掛かりました。稽古や試合における作法など、人としての影響を受けるとは剣道入門以前の私には想像出来ませんでした。居合道からは基本の深さや刀を抜く前、切り倒した後の残心等、丈道からは、さらに体捌きを学びました。手足の動き一つでも奥の深さを感じ、基礎研究にも戻ってしまいますが、対人の動作をハズしては何にもなりませんので、刀も防具も持って、山崎剣友会に通い続けます。



「居合道演舞」
武田弘五段



35年ぶりの玉手箱

千原真治

私の父親は、歯科医で剣道の達人であった。縁あって大阪PLの剣道部の創設者と成り、初代の指導者でもありました。その環境の中、小学四年生から剣道を始めることとなりました。以来、時は過ぎ2つの大学を卒業するまで、懸命に稽古に励み、数多くの試合にも参加し、それなりの戦績を残す事が出来た事は幸いでもありました。充実感、満足感もありました。しかしながら、そこには自らの意志とは裏腹に、本当の喜び楽しさを感じることはさほどなかった様にも思えたものでした。それ故、剣道の良さを理解するまでも無く、意欲も喪失してしまい、離れる事になりました。

その後、ゴルフ、テニス、スノボに熱中しました。遅い青春を楽しみました。あつという間に30有余の年月がたちました。その頃、友人から剣道を始めるよう勧めがありました。何故か素直に話を聞ける自分が居ました。早速、菅野先輩に相談をさせて頂きました。山崎剣友会との出会いです。

屋根裏に上がり、防具を探し手入れして準備しました。不安がよぎります。身体が動くだろか?とにかく、楽しむ心を大切にして望もう。思いもよらぬ大変な、緊張です。先輩に、教わり山崎中学校へ。そこには節度がある中にも、アットホームな雰囲気の稽古の風景がありました。一度も経験したことない、感覚でした。試合の、結果や、強さを求められる環境とは大きく異なるもの。回り道したけど、大変な、宝物を知ることが出来たかも?先輩が心血を注ぎ、皆さんが信頼して協力され作り上げた環境。仲間入りができます、幸せです。交剣知愛この言葉が心地よく感じます。有り難うございます、又、宜しくお願ひします。



人生を豊かにする山崎剣友会

愚劍庵・鈴木 憲

山崎剣友会の素晴らしいところは、会員の皆さんのがみな真摯で寛容なお人柄であることと、指導者・子供たち・ご父母の方々三者が心を合わせ、三位一体となって活動しているところです。

会長さん・副会長さん・監督さんら指導者の方々は、雨の日も、風の日も、仕事で疲れている日でも、手取り足取り・叱咤激励して子供たちに基本や技を、心を込めて教えています。

会全体は、就学前の幼児から人生の大先輩、ご父母の方々までが一枚岩、非常に良い人的環境を作り出しています。指導者の方々の人徳・剣徳、ご父母の方々の並々ならぬご尽力あってのことです。

山崎剣友会は、地域の子供たちを育てる師弟・親子同行の人づくりの場であり、剣道を通してお互いを理解し合あえる交剣知愛の場です。私は老境の剣道愛好家ですが、生涯剣道を目標に皆さんとお手合わせ、お付き合いをここ山崎剣友会で続けて行きたく思っています。

剣道界は実力と実績の世界と言われますが、一方で、例え力が衰えたとしても間と間合いや気のやりとり、合理的な体・竹刀の操作などを研究工夫することによって、スピード・跳躍力のある若い人たちとも剣を交えることが可能です。若い人・強い人には打たれますが、立派に打たれることを目標にすれば、打たれることも心を練る稽古になります。

日に日に成長する子供たちからは元気を貰い、ご父母の皆さんからは笑顔の挨拶を戴き、先生先輩方、剣友の方々からは気持ちの良い打突を頂戴し、稽古後はより美味しいビールを楽しむことができる今日この頃です。格安の年会費は生活の苦しい私には大変有り難く、山崎剣友会のお蔭で豊かな剣道人生を送れることに深く感謝致しております。私は、山崎剣友会に何一つ貢献しておりませんが、次代を担う有為な子供たちが山崎剣友会から輩出することを、心から祈念致しております。

山剣が教えてくれたこと

松本和子

私は山崎剣友会にお世話になって 20 年ほどになりますが、山剣が教えてくれたことについてお話しします。

入会当時、小学校・幼稚園児だった三人の子供たちは既に成人し、剣道を続けてるのは私だけです。今は、山剣の小学生・中学生のみんな、長くお世話になっている先生方と暑くても寒くても、苦しくても下手くそでも一緒に稽古をするのがとても楽しみで、何より私の大きな励みになっています。

蒸し暑い日、凍える寒い朝などお休みしたいなと思う時が誰にでもあります。でも、頑張って山剣に来て稽古した後は、不思議なくらい、すがすがしい気持ちになります。その小さな積み重ねが、いつの間にか、強い心や気持ち・身体を作っていくと思います。

一生懸命努力していると、それまで見えなかつた瞬間・わからなかつた技が見えたり、気がつくようになり、やがて必ず出来るようになってきます。意識して続けて努力することはとても地味なことだけれど、剣道だけでなく、勉強や仕事、家庭、また心の持ちようでも同じだと思います。

そして、山崎剣友会には、山剣ならではの「縦のつながり」と「温かさ」があります。この〈山剣カラー〉は小学生・中学生、高校生、大人、そして先生方を通してとても仲が良いことです。田植え体験ができるのもおそらく山剣だけでしょう。お当番や役員のお母さん達は、伝統的に皆さん一生懸命応援してくださいますし、卒業生が来たときは、とてもカッコ良くて嬉しい気持ちになります。そして、私自身がそうでしたが、時間が空いてもまた、稽古に戻れる温かい雰囲気が山剣にはあると感じてます。これはとてもすごいことだと思います。

山剣 40 周年、大切なことを教えてくれる山崎剣友会に、私は感謝の気持ちでいっぱいです。これからも、どうぞよろしくお願ひします。



山崎剣友会剣 40 周年

菅野公成

山崎剣友会には、記憶が正しければ、小学2年の時に入会し、引越しなどで退会はしていましたが、社会人になって8年前に再入会しました。月日が経つのは早いもので、40年!!って凄い事だと思います。

これから先も50年60年、それ以上繰り返される様に会を盛り上げて行ければ良いと感じています。



祝！山崎剣友会 40 周年

中川 総

この度の山崎剣友会発足 40 周年、誠におめでとうございます！

私事ですが、山崎剣友会には平成 23 年の 4 月より正式に所属させて頂き、現在までお世話になっております。こちらに入会する前は、家族で唯一剣道をやっていた長男をダシに使い、他の道場でそれなりに稽古に通えていたのですが、長男が中学卒業を期に剣道をやめてしまって、それ以降、我が家で剣道は『私一人の道楽』扱いとなっていました（爆）。

同時期、次男が山崎小学校にある学童野球チームに所属し、そのお手伝いなどで稽古から完全に遠ざかっていた時に『学童野球チームに顔を出しながら稽古に行ける距離で、しかも会費が格安！』と言う、私にとって渡りに舟の存在が山崎剣友会でした。顧問の西山先生、菅野会長をはじめとする指導者の先生方は本当に気さくでフレンドリーな方が多く、部外者の私を快く迎えて下さいました。

あれから 5 年間在籍させて頂いていますが、諸事情により、たまにしか稽古に顔を出せずに申し訳なく思っています。稽古に行けた際は、私が諸先輩より剣道を通じて教えて頂いた沢山の「剣道続けていて良かったなあ」と思う点を少しでも、若い子供達に剣を交えて伝えていけたらなあと思います。

どうぞ、これからも宜しくお願ひ致します。



山崎剣友会 40周年

永井志朗

40年という長い伝統を持つ山崎剣友会で稽古出来る事はとても光栄な事だと感じます。基本を大事にした稽古だけでなく『田植え』や『お汁粉会』等のイベントでの仲の良く居心地の良い雰囲気に稽古の日が待ちどうしくなります。

節目の記念大会での先生方の居合いや空手の形の演舞等、剣道だけでなく色々な取り組みを見て積み重ねられた伝統を感じる事が出来ました。試合では普段の地稽古では味わえない緊張を感じ、とても充実した時間を過ごす事が出来ました。子供達の試合も普段以上の力を精一杯発揮している姿に感動させられました。

あまり積極的にではなく中学の部活から始めた剣道ですが気づけば約20年もの年月が流れています。社会人になり一度竹刀を握ることを止め防具を押入れの奥にしまっていませんが山崎剣友会に出会い、また剣道を始める事が出来て先生方や子供達にはとても感謝しています。

後悔先に立たずといいますが、剣道を再開して一番思うことは学生の頃の基本稽古の大切さです。今、子供達の元立ちに立つ時は如何にしてこの事を分かってもらうかという事を考えながら受けていますがなかなか難しい所です。

今後の目標は自分自身の上達もありますが、それ以上に6年生から剣道を始めた息子の成長を見守っていきたいと思います。

これからも西山先生を始め山崎剣友会の方々と一緒に剣道を続けていける事に感謝し怪我の無いように稽古をしていきたいと思います



中年おやじ、35年ぶりの挑戦

小澤 実

「小澤さん。最近何かスッキリしていますよね」職場の同僚が言った。

「そうか？」

僕は今までスッキリしていなかったのかー。と思いつつ、心当たりはあるんだけどね。と心の中でつぶやいてみる。

声がかかるぐらいためを出し、体のどこからあれだけの水分が出てくるのかというぐらいためをかく。眠っていた体中の細胞が呼吸をしだすような感覚。とても気持ちがいい。日頃の生活の毒がすべて吐き出される。スッキリしないほうがおかしい。

昨年12月から山崎剣友会に参加させていただいている。4月にようやく本会員になった。実に35年ぶりの剣道だ。最後に竹刀を持ったのは中学3年生15歳の時。中学（忠生中学校）で剣道部に所属し、3年間、汗をかいた。それ以来、剣道の「け」の字も頭に浮かばい生活を続けた。気が付けば、昨年10月に50歳になった。

「武道がしたい。」誕生日が迫るころに、なぜか思い立った。

「やっぱり、剣道かな」多少経験があったことが背中を押した。

「よし！剣道をやろう」

それから道場を探し始め、山崎剣友会とめぐり合った。見学した日は11月22日。翌週が創立40周年の記念行事があるとのことで、結構な大人数が練習に励んでいた。みんないい表情をしていて、いい動きをしていた。練習終了後、栗原先生に、「昔を思い出でしょ」と言わされた。図星。わくわくしていた。

山崎剣友会に通い始めて半年。体力の衰えを感じる日々。面打ち切り返しの基本練習をすれば、すぐに息が上がる。いっぱいの剣道ができる体には到底至っていない。でも、気持ちがいい。練習後は爽快だ。先日、胴打ちを教わった。元々胴打ちは苦手の技だった。「なるほど」と思った。繰り返し練習し、早く自分のものにしたい。もう50歳。されど、まだ50歳。いろんな技を覚えるのも楽しみだ。今年はまず1級を取り、できれば初段に挑戦したい。

山崎剣友会と私

前田陽平

私が剣道を始めたのは、今から二十七年前の小学一年生の時でした。始めた理由は、自分から剣道をしたいと言った訳ではなく、落ち着きがなかったために、親に勧められたことでした。

当時の私は整列中もじっと座っていられず、集中力がなく、しおちゅう叱られる子でした。

そんな私も、試合で一本を取れるようになり、試合でも勝てるようになり、次第に剣道の楽しさを知り、どんどん剣道が好きになっていきました。

中学、高校、専門学校に入ると次第に忙しくなり稽古に行かなくなりました。その後、社会人になったとき、ストレスを発散したくて、また「剣道に行きたい」と思うようになりました。

実際に再開してみると週1回剣道で汗を流すことがとても気持ちよく、また子供たちの姿を自分の幼少時代に重ね合わせ、当時の先生方がしてくれたことを子供達にしてあげたいと思うようになりました。

剣道を始めて二十七年、今思えば剣道で「礼法」や「忍耐」をはじめ、多くのことを学びました。剣道をやってなかったらどんな人間になっていたらうと思います。

今の小中学生が『山崎剣友会に入って良かった』、『剣道をして良かった』と思えるよう私自身も努力していきたいと思います。

山崎剣友会の歩み

1.創立および周年行事

1976年	山崎少年剣友会として発足
1985年	創立10周年行事
1991年	創立15周年行事
1996年	創立20周年行事
2005年	創立30周年行事
2015年	創立40周年行事

2. 山崎剣友会歴代会長

初代	溝渕忠志(1976年~)
二代	西山健太郎
三代	古門裕康
四代	川原孝人(1997年~)
五代	菅野和治(2005年~)

3. 会員数の変化

年度	小中学生	高校生	一般	指導者	合計
1976	資料なし				
1989	48	12	9	8	77
1994	31	7	4	10	52
1999	19	7	15	8	49
2004	14	6	20	9	49
2009	14	7	18	9	48
2014	11	1	19	7	38
2016	15	0	12	7	34



